

「忘れること」

野口 啓示

私は1999年に児童養護施設神戸少年の町の職員となり、児童指導員を10年、そのあと施設長をさせていただきました。結果的に、18年児童養護施設に務めることになったのですが、そんなに長く務められるとは思っていませんでした。

私が一年目の職員だったときに、新任職員研修会があり、ベテラン職員の話をしきという機会がありました。そのなかで、あるベテランの女性職員の方へ、新任の職員から「なぜ、そんなに長く務めることができたのですか？」という質問がありました。そのベテランの職員は「忘れることです」と言い、ゲラゲラと大声で笑われました。会場も大爆笑になったのですが、「面白いことを言う人だな」との印象を持ちました。でも、よくよく考えてみると、この「忘れること」の意味の深さです。

「忘れること」これは意外と難しいのです。私たちだれしもが忘れられない記憶を持っているものです。

「人から受けた嫌なことを忘れる」ために必要なことは「人を許す」ことかもしれません。「許すこと」ができたとき、「忘れること」の境地に達することができるのではないのでしょうか。「忘れること」「許すこと」このように考えると、新任職員研修会でベテラン職員が言われた「長く続けるコツは忘れることです」との言葉の深さに気づかされます。

なかなかファミリーホームでの里子養育は簡単ではありません。子どもたちが受けた心身の傷は深く、子どもたちが取る言動により私たちが傷ついてしまうことは少なくありません。でも、養育者としては、そんな子どもたちを受け止めることが求められています。私たちがつぶれてしまわないように、うまくいろいろなものを「許し」、「忘れられたら」いいですね。

ちなみに、新任職員研修会のあるベテランの女性職員は、私の妻の婦美子さんです。

